

有縁の皆さんでお読み下さい

2022.No315

純正寺報 青色青光

仏歴 2565(令和4)年 8月号

己が身に引き比べて 殺してはならぬ 殺さしめてはならぬ

～ダンマバダ～

お念仏の 家族に なるう

毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

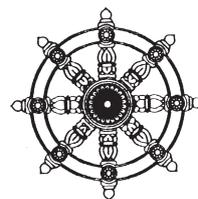
お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光

No.315



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス：purity-temple.since1499@nifty.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

歡喜会(物故者追悼法要)

8月7日(日)

10:00~11:30 13:30~15:00

勤行：『仏説阿弥陀經(訓読)』(午前の部)

『正信偈和讃』(午後の部・物故者追悼法要)

法話：愛荘町河原了教寺ご住職

藤岡 俊彦 師

YouTube 純正寺チャンネル

LINE 純正寺公式アカウント



QRコードリーダーで読み込んでください。

8月25日(木)

10:00~11:30 13:30~15:00

こんき常例布教

法話：純正寺 釋 覚恵 住職

講題「先祖教でも、親鸞教でもなく」

純正寺の法要は「YouTube」「LINE LIVE」で、生配信でも録画でもご視聴・お聴聞していただけます。

住職法話我聞如是

われかくのごとくきく

己が身に引き比べて

戦争の傷跡から学ぶべきこと・中

疎開生活

純正寺の全施設が強制撤去されて約ひと月後の八月十五日、太平洋戦争は日本の降伏・敗戦で終結しました。敗戦によって、昨日とはものの価値観が正反対になった戦後の大混乱の中、純正寺は寺院活動の再開どころか、住職とその家族の住居さえないという悲惨な状況でした。

このような状況の中、住職(私の祖父)とご本尊(本堂内陣の阿弥陀如来像)は、祖父の学友でもあるご門徒の家(当時の純正寺の斜め前)にあって、建物疎開を免れた)に居候させていた

くことになりました。一方、坊守(私の祖母)や子ども達(私の父や伯父・叔父・伯母)たちは、祖母の実家のお寺や親類のお寺に疎開することになり、家族はバラバラになりました。

しかも、疎開先のお寺にも大勢がそう長く居候するわけにもいかず、幾つかのお寺を転々とし、挙句には町工場の片隅の四畳半の部屋を間借りせざるを得ない時期もありました。そんな住職一家の状況を見かねたご門徒方が、更地になった純正寺の境内地を売却し、それによって得たお金を元手にして、借地の上に建つ

ていた平屋(彦根市尾末町)を購入し、昭和二十三年六月、この住宅を仮本堂として、住職一家の戦後の新しい生活が始まったのでした。

思いがけない後継

とは言え、住職一家の生活はとても苦しく、子どものお腹が食べ物で満たされることが全くなかったようです。当時、十歳代であった前住職(私の父)は、中学校を卒業したら就職してお腹いっぱいご飯を食べるんだと強く思ったと、私に話してくれました。

そんな父は、高校を卒業して京都にある染物工場に就職しましたが、ちょうど成人した年に祖母が急な病で往生しました。更には、祖母の往生を契機に父の上

にいた二人の兄が、住職の後継をしないと宣言しました。理由は、「本堂もない、庫裡もない、坊守もない。こんな寺に、もう未来などないと思った(伯父が私に話してくれました)」というものでした。

そうなると、次に番が回ってくるのが三男である父でした。父には、下にまだ二人の弟がいたのですが、流石に高校生と中学生の弟に後継を託すわけにもいかず、父は勤めていた染物工場を退職し、独学で三年間勉強をして京都の龍谷大学に入學し、仏教の知識を身につけて得度をし、祖父から住職の後継する準備を進めたのでした。そして、父は母と結婚して、久しぶりに純正寺に坊守が誕生し、間も

無く私が生まれました。

いのちと引き換えに

しかし、純正寺はというと未だに本堂もなく、法要の際には普段は私たちの住居である六畳二間を本堂にして、ご門徒にも十分お参りしてはいただけない状況は変わりありませんでした。私の子どもの頃の記憶では、私が小学生の時には祖父が「お前が中学校に入学するまでには新しいお寺ができるからね」と話してくれましたが、中学校に入学しても状況は変わりません。すると、今度は「お前が高校に入学するまでには・・・」と祖父は話しましたが、やはり高校に入学しても新しい純正寺ができる様子はありませんでし

た。そして、祖父は念願であつた新しい純正寺をその目で見ることなく、昭和五十八年に八十五歳で浄土往生したのです。

ところが、この住職の往生が機縁となつて、「前任職（祖父）の七回忌を新しい本堂で」を合言葉に、ようやく本堂復興の計画が進みだしたのです。そして、昭和六十年に現在の純正寺の土地を購入、六十二年に本堂が、明るく六十三年には庫裏が完成し、平成元年には念願の前住職の七回忌が新しい本堂で営まれたのでした。同じ年には落慶法要も営まれ、ついに純正寺が念願の再出発を果たしたと思つたのも束の間、明るく年に住職（父）は病に倒れ、翌年（平成三年）五十五歳

の生涯を全うじて浄土往生を遂げたのでした。父の住職在任期間八年は、まさしく純正寺再興のためだけの八年間となつたのでした。

戦争の深い爪痕

そんな父が最晩年、私に残してくれた珠玉の言葉の一つに「わしがやってきたことは、所詮お金が工面できれば何とかなる話や。しかし、お前に残すものは何一つとしてお金では決して買えないものばかりやから、覚悟しておきなさい」という言葉です。私が父から純正寺の住職を継職して三十年あまり、この間常にこの言葉を痛感し続けています。確かに、本堂を再建するためにはお金の工面ができれば何とかなるのかもしれない

せん。

しかし、本堂に人が集い、お念仏の教えを聞き、お念仏の教えを共によるご仲間（朋友）に出遇い、お念仏を抛り所として生きることは、どれ一つとしてお金で買えるものではありません。しかも、本堂がなかつた四十年余りの月日は、お寺に参る習慣をご門徒から奪ってしまったので、その実現の難しさはひとしおです。目に見える戦争は、あの日集結したのかもしれない。しかし、戦後八十年近くたつても、未だ目に見えない戦争は続いているのです。今も深い爪痕となつて。

次号に続く



純正寺8月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



ほとけの子ども会「サマースクール」

4日(木)・5日(金)
小学生・中学生対象

ほとけの子ども会の、夏休みの恒例行事。ダンボールアート教室や仏典アニメ上映など、盛り沢山です。

「歓喜会」「物故者追悼法要」

7日(日) 10:00~15:00
年齢性別は問いません

弥陀浄土に往生されたご先祖がくださる仏法聴聞のご縁です。ご法話は、愛荘町河原了教寺の藤岡俊彦師です。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

9日(火)・23日(火)
10:20~11:30

年齢・性別は問いません
お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

みんなの食堂ビハーラ

11日(木)・25日(木)
17:00~19:00
年齢・性別は問いません

子ども同士や親子で過ごす楽しい夕食のひと時。コロナの状況によっては、テイクアウトに変更も。

「月例法話座談会」

17日(水)
14:00~16:00

年齢・性別は問いません
日常の「何故?」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

20日(土)
16:00~18:00

就学前・小・中学生対象
『らいはいのうた』のお勤めをした後、住職が仏典童話の読み聞かせをします。

こんき常例布教

25日(木)
10:00~11:30.13:30~15:30
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法友ができる法座です。ご法話は、純正寺釋尊住職の「先祖教でも親鸞教でもなく」です。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

28日(日)
16:00~17:30

小学生・中学生対象
教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。手洗い・マスクを忘れずに。

世のなか安穩なれ「ビハーラ彦根」

28日(日)
18:00~20:00

年齢・性別は問いません
参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

上げます。

謹んで、お念仏申し

行年八十二歳

俗名 所和子さん

法名 釋好華

七月二十二日往生

ご往生

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:45
年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。LINE LIVE で生配信もします。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
生きることが辛くなる悩みは、早めに気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は 090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは namo-yorozu@docomo.ne.jp